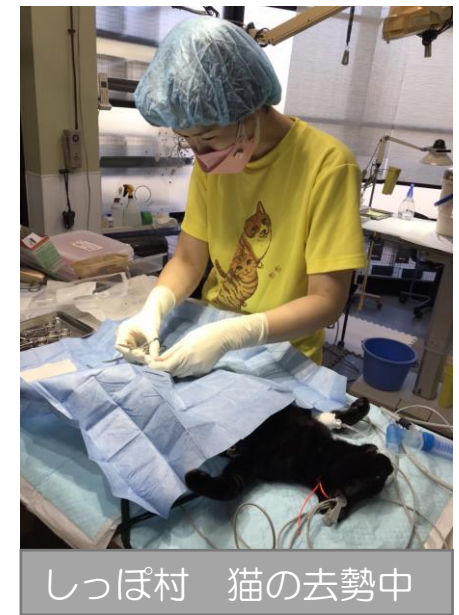


自己紹介

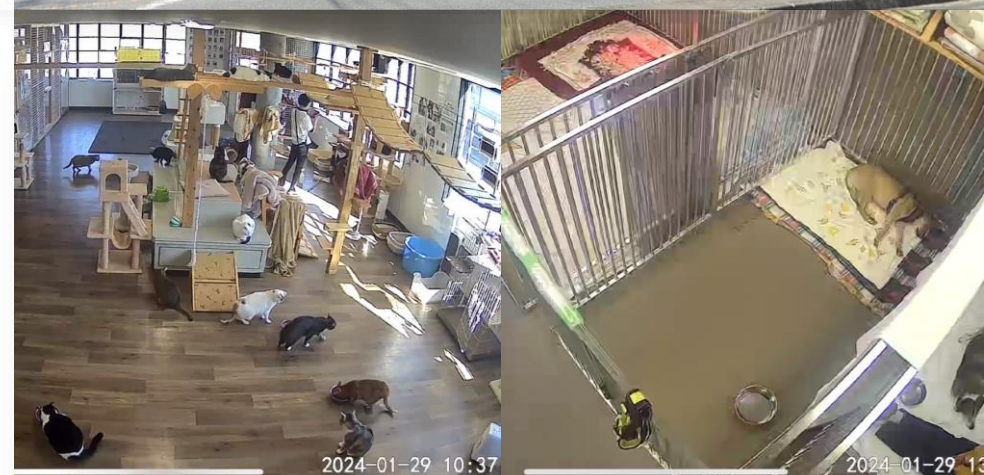
- 名前：安藤（旧姓：田村） 亜紀
- 出身：東京都八王子市
日本獣医生命科学大学 臨床繁殖学研究室
- 趣味：食べること、ピアノ、キックボクシング



- 2015年4月～2022年12月 約7年半 秋川どうぶつ病院にて勤務 阿部先生と出会う
- 2020年2月～ 府中の大学にて 単科研修（腫瘍科）
- 2021年5月～ 東京にある二次診療施設にて 夜勤を週1-2回で勤務
- 2021年～ 神奈川県にある犬猫保護施設「しっぽ村」に
→TNR保護犬猫診療所が完成。獣医師として従事
- 2023年2月～ フリーランス獣医師として開業、結婚
千葉県にある動物病院にて週2勤務
(学生時代にバイトしていた病院で出会った先生が、夫婦で開業)
- 2024年4月～ 老犬ホームの往診、八王子の小さな一次病院で週一半日出勤

一般社団法人 しっぽ村（犬猫保護施設）

- 第二種動物取扱業
- スタッフ総数：村長 1名
スタッフ 6名（常勤 2名、パート 4名）
他 ボランティア多数
獣医 私のみ（大変な日は助っ人を呼ぶ）
- 現在の保護頭数：犬：約9匹 猫：約69匹
（昨年受け入れ頭数：犬17匹、猫114匹、譲渡⇒犬16匹、猫76匹）
- 活動内容：保護犬猫の受け入れ、お世話、譲渡、捕獲、
啓発普及活動（講習会、講演会、展示、イベント）
相談窓口（昨年630件）、災害支援（福島、熊本、石川）
- 保護動物の診療、予防、手術（2023年 捕獲:155頭 手術:131頭）
- 大学との提携（卵巣の提供など）



グリーンケアについて ココが教えてくれたこと

2024年7月18日 うさぎ塾

フリーランス 獣医師

安藤（旧姓：田村） 亜紀

グリーフとは

「人」 家族、親友、恋人、失恋、離婚、死別、子離れ、親離れ
「場所」 転勤 転校 引っ越し 卒錠 進学
「物」 財産、宝物、家、貯金、アクセサリ、手紙、思い出の品、財布、時計、車
「役割」 仕事、子育て、介護、地位、誇り、自身、目的
「健康」 病気、事故、身体的喪失、痛み、体調の変化
「気持ち、考え方」 信頼、信用、尊敬、敬意、期待、正義感
「習慣や生活リズム」 食べる、動く、寝る、トイレ
「ペット」 死別、譲渡、行方不明、行動の変化、病気に伴う変化

- グリーフ：直訳すると「悲痛」
- 生きていると誰にでも起こる喪失体験
- 自分にとって大切な宝物を失ったとき、失うかもしれないときに誰にでも起こるごく自然な心と体の反応

グリーフの心理過程

- **衝撃期**…ショック、思考低下、否認、緊張、不眠、食欲不振など
自己を防衛する反応が強く現れる
- **非痛期**…悲しみ、嘆き、後悔、自責、罪悪感、怒り、孤独、
見捨てられ感など真の心の痛みを体験するグリーフに耐える時間
- **回復期**…現実の受け入れ、折り合い、肯定的思考、勇気、立ち直りなど。
思考力が戻る。前向きに考えることができる。
- **再生期**…再出発、希望、ペットから自立、新たな出会いなど

グリーフの表れ方



- **ボディランゲージ**…腕や胸の前で組む、体を揺らす、手を口に当てる
- **目や顔の表情**…視線を逸らす、顔色、瞬き
- **声の表情**…ふるえ、話ができない、声のトーン、何度も同じ質問をする

安全基地の確保

- 動物は、人に出会ったときから体は変化しても心は変わらない
 - ⇒ 自立しない永遠の子供ともいえる
- 子供の心を持つ動物にとって、安全感を保つことは最も重要
 - ⇒ **安全基地がエネルギーを充電する大切な場所となる**
- 飼い主さんは精神的にも肉体的にも疲れ、様々な負担からストレス↑
 - ⇒ 動物の緊張や警戒心は高まる
- 家族間の言い争いや沈鬱な空気の中で動物は大好きな居場所を失ってしまう
 - ⇒ **動物目線でのグリーフケアが重要**



自分自身、家族が経験したグリーフ



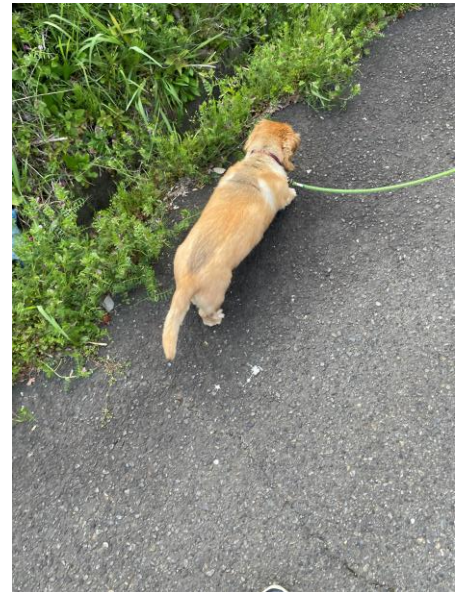
プロフィール

- 名前：ロコ
- 名前の由来：以前飼っていた柴犬がコロだったため
- 性別：去勢オス
- 犬種：M.ダックス
- 年齢：推定16歳（保護犬のため）
- 既往歴：椎間板ヘルニア（G1）
脾臓破裂（2022年）⇒血腫
- 現病歴：下顎メラノーマ（2024年4月見つかる）



ロコとの出会い

- 母の職場の人が公園ガリガリに痩せて放浪していたところを保護
(14年前)
- 飼い主見つからず、飼わないかと言われ、家族が了承
- 私：2016年に一人暮らしするまでの1年～2年間
共に過ごす。
ロコに会うため、時々実家に行っていた



口コの性格

- 好きなこと… 散歩、食べること、ゴミあさり、おもちゃで遊ぶ
動物を見ると興奮、突進、脱走、ドライブ、母が一番好き
- 苦手なこと…人は苦手（特に男性）



口口は2年前に生死をさまよった

- 突然の体調不良
⇒ 緊急手術、輸血、人工呼吸4日間

家族みんな強い
衝撃期



大手術から2年…

- 2024年4月 母から、歯肉が腫れているとLINE
- 見に行くと、見た目からも悪性腫瘍を疑う。
- 次の日、大学の腫瘍科へ⇒細胞診の結果、メラノーマ



犬の口腔悪性黒色腫（メラノーマ）

- 犬の口腔内に発生する悪性腫瘍の6割を占める
- 局所浸潤性が強く、遠隔転移率は高い（リンパ節、骨、神経、肺…）
- 早期発見、早期外科治療すると生存期間中央値34カ月との報告あり
- 無治療の場合、生存期間中央値2カ月
- 化学療法は効果に乏しい、他に放射線療法
- メラノーマワクチン：根治後に使用するもの

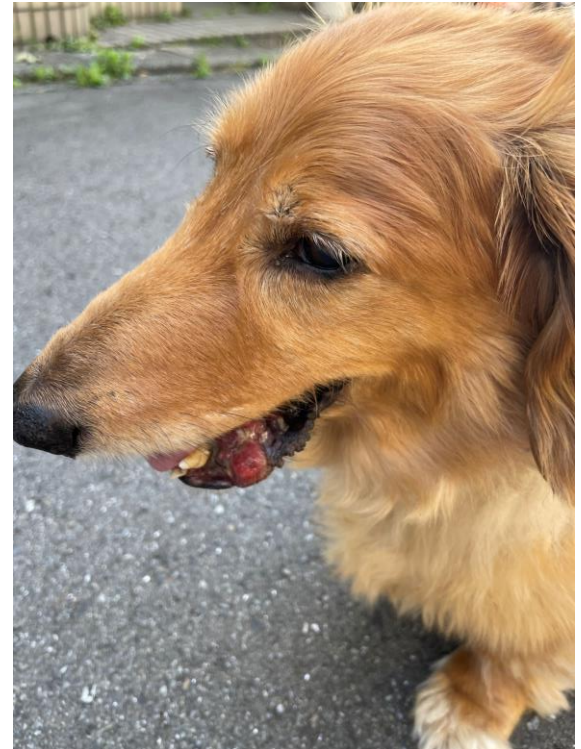
うさぎは？

- 毛芽種、メラノーマ、線維肉腫、乳腺腫瘍、皮下膿瘍
- 発生部位：耳介、上眼瞼、鼻梁、眼



悪性腫瘍が発覚して、衝撃期、再び

- ロコはこれから徐々に老犬になって、弱っていくものと思っていた
- なぜ、また病気と闘わなければいけないのだろう
- なぜ、ロコはまた苦しまなきゃいけないのだろう
- 食べるのが大好きだったのに、なぜ口にできるのか



私の意見

- まだ転移はない、体は元気、今後どんどん大きくなったら食べられなくなる。
⇒顎が半分なくても犬は食べられる。手術を今するべき。
- 転移する前に、小さいうちに下顎切除して取り切れれば、長く生きられる可能性がある。
- 飼い主は悪くなってからやっぱり手術してくれと言ってくるに違いない
⇒転移して悪化してから手術するほうが負担大
- 家の中が臭い、出血もする、それに耐えられるのか？ロコが可哀そう
- 根治は難しくても、緩和治療としての外科、放射線はやってあげたい
- 後になって注射や点滴などロコにとって嫌なこと任される、やりたくない

両親との意見の衝突

両親の意見

- もう16歳、十分頑張った
- 病院に行ってまた入院させたくない、離れたくない
- 最後まで面倒は自分でみる
- 外科医はみんな外科をすすめる（母はもともと看護師）
- 父に言って、母に言って⇒話し合いの拒否

⇒手術も放射線も拒否 毎日のように喧嘩

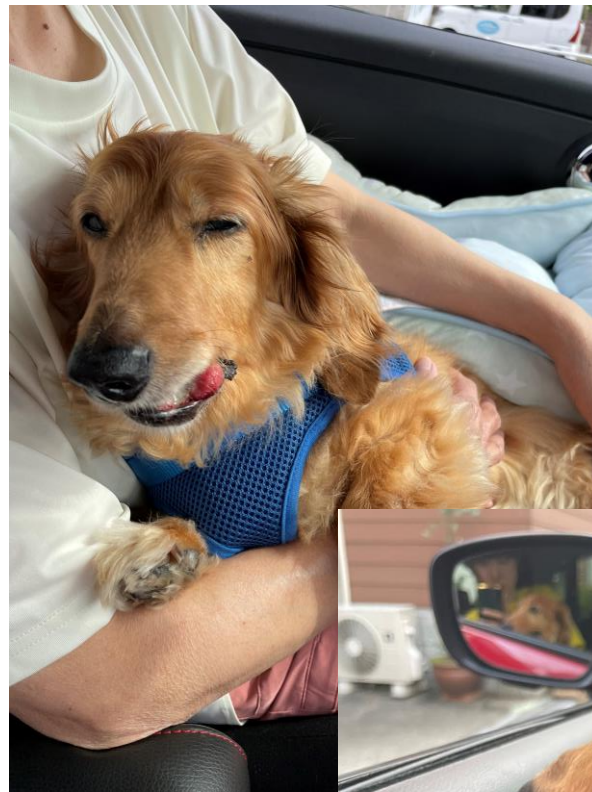
⇒安全基地が不安定になる

回復期 ⇔ 悲痛期

- ロコの喜ぶこと、好きなことをさせてあげよう
(思考が停止すると、忘れがちになる)
- 嫌なことはもうやめよう (病院、投薬、強制給餌)
- ロコがくれた、お別れの覚悟を決めるための準備期間だ
- ロコがいたから、家族が繋がった
- でも手術していれば…
- 安楽死はしたくない

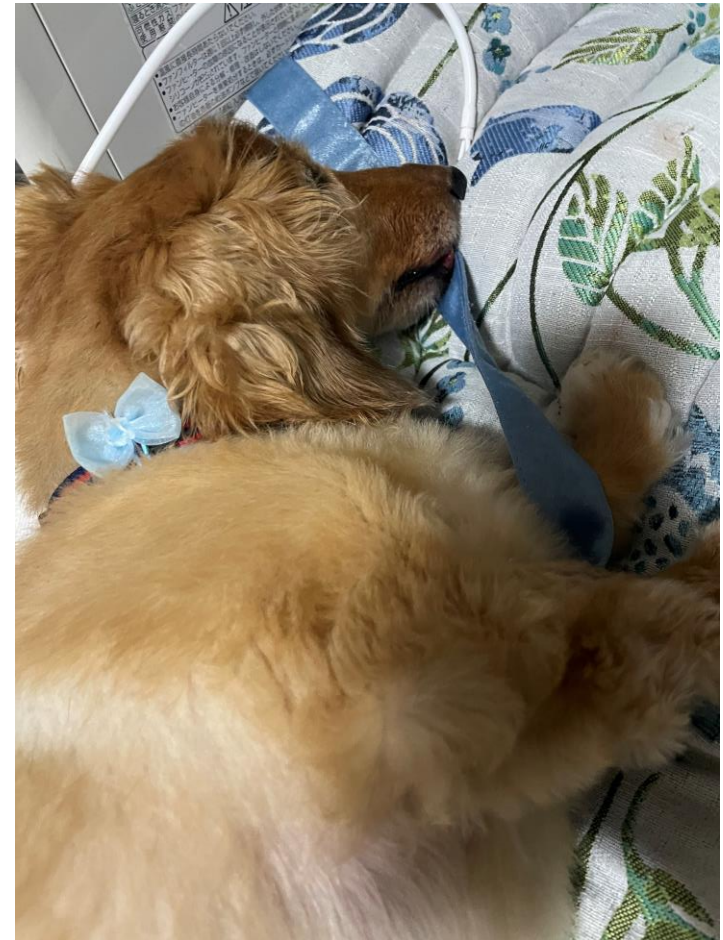
- なるべく暗くならないように。安全基地の確保を

口々にできることを…



3カ月が経過、お別れが近いのかな

- 吐いたあとに発作
- 認知機能の低下
- ぐるぐる徘徊



ロコ、家族に対してのグリーフケア

- 寝不足になってくる母、目が離せない状況（父はマイペース）
⇒なるべく必要なものは買い物していく
- なるべく明るくいつも通りの生活を。
- 前向きな考え、言葉をかける
(脳に転移して、なにもわからなくなっていて、逆によかったのかも)
- 発作が起きたときの点鼻薬
- 痛みに対して、リブレラ、フェンタニルパッチの準備
- 嫌がることはしない、本人の意志に任せる
- 換気、扇風機
- 一日一日で覚悟を決めて会いに行く。

ご清聴
ありがとうございました
ございました

